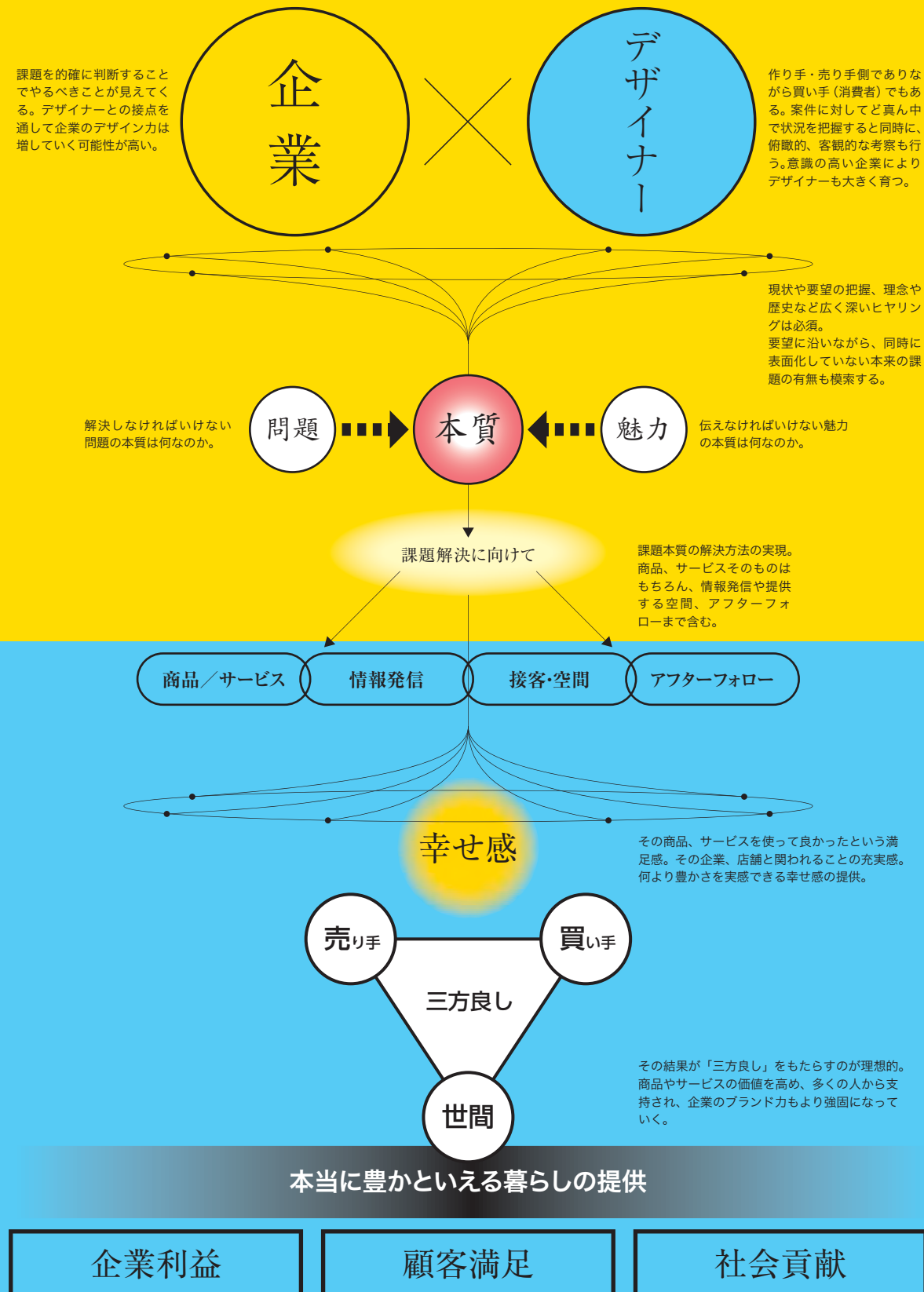
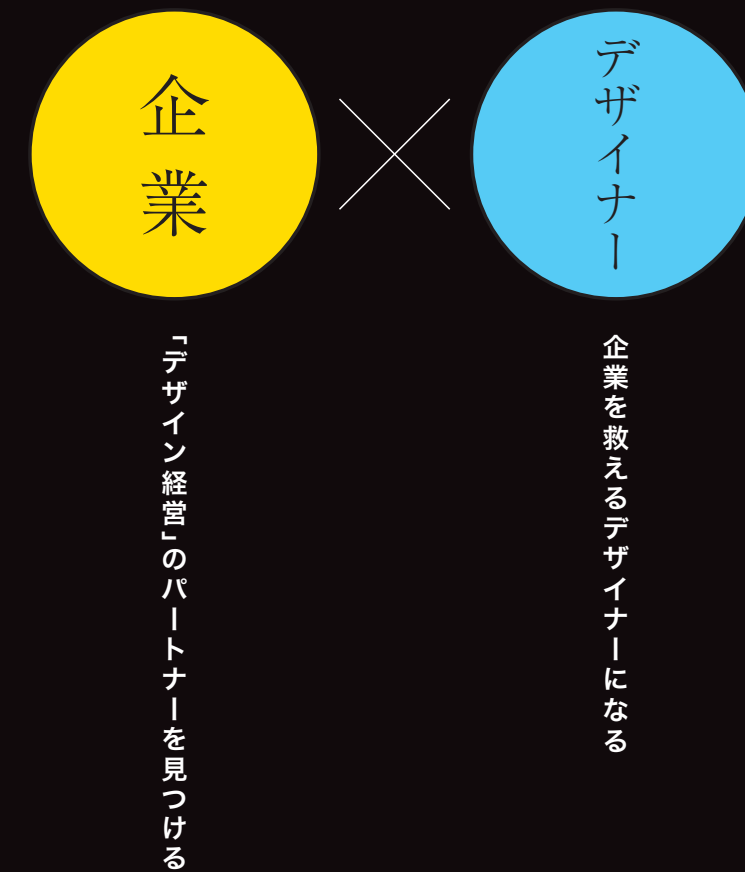


デザイン = 企業とデザイナーの協働



Step 4 パートナー選定 連携開始

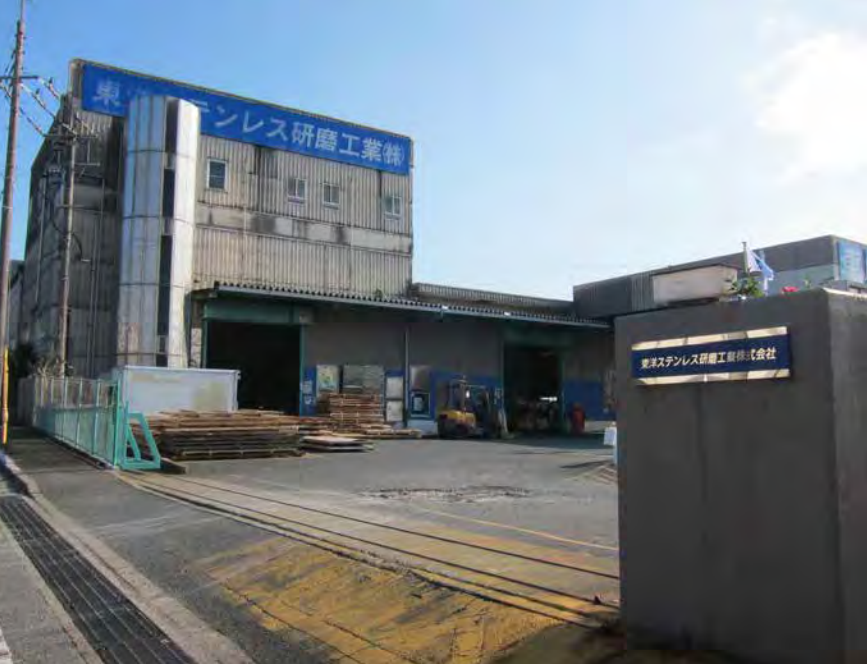
協働によるデザイン経営の始まり。



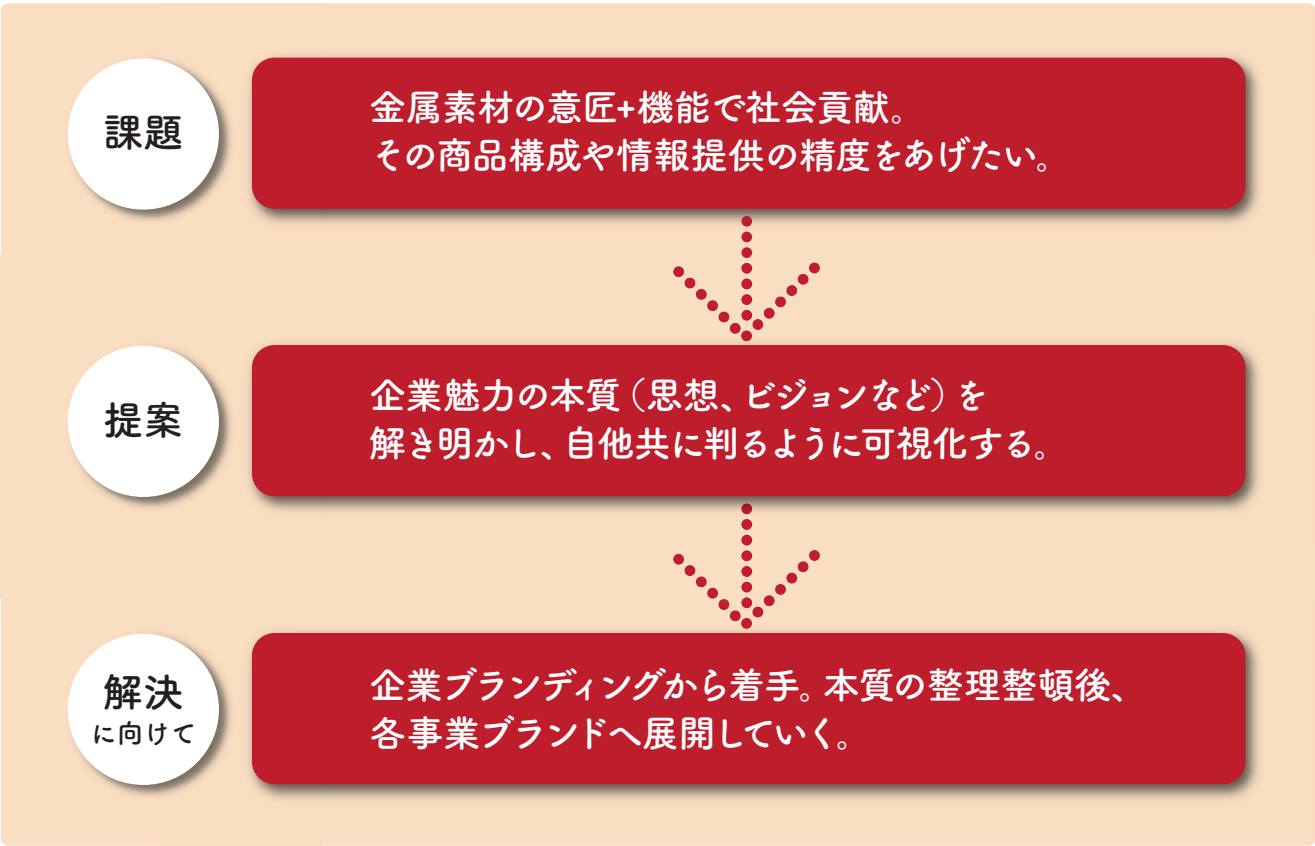
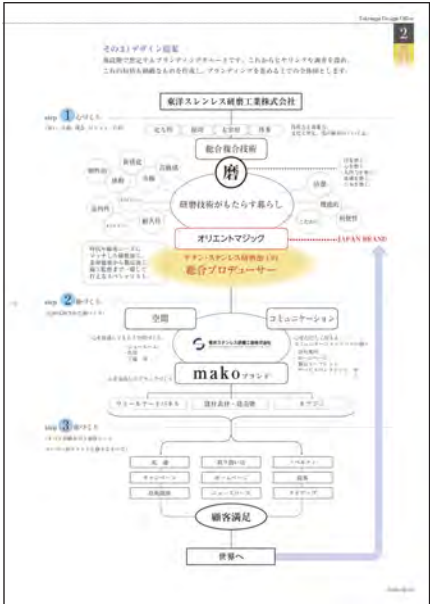
町医者のようなデザイナーとの付き合いを求めて。

●東洋ステンレス研磨工業株式会社

ステンレスの複合研磨技術を基盤に「金属素材に意匠性と機能性を与えることでの社会貢献」をミッションとする、創業52年の歴史を持つ福岡県太宰府市の金属メーカー。加工前の素材から製品まで、ステンレス全製品の一貫研磨設備を装備している点で全国有数の企業であり、ステンレスで作るデザイン雑貨ブランド「mako」製品の販売も行っている。第18回ステンレス協会賞 優秀賞受賞（福岡県弁護士会館の外装・内装）。



デザイン提案書



可視化して課題とビジョンを共有する

東洋ステンレス研磨工業は、2030年をめどに自社ブランドの確立を目指しており、事業戦略推進に「デザイン経営」の手法を活用して会社自体をデザインする必要があると考え、そのパートナーとなるデザイナーを見つけるべく、今回のプロジェクトに参加した。門谷社長は「広い意味でのデザインワークを頼めるデザイナーと出会う機会がなく、自社課題を共有できる「町医者のデザイナー」との出会いを期待した」と語る。

東洋ステンレス研磨工業のプレゼンテーションで示されたのは、「金属素材に意匠と機能を与えることで社会に貢献していくために、商品構成や情報提供の精度を向上し、自社ブランドの確立につなげていく」という課題だった。

複数のデザイナーから提案書が出さ

れ、最終的に門谷社長によって武永デザイン事務所が選定された。

武永デザイン事務所の武永代表は、2018年から「デザイン経営」の啓発活動に携わっており、「売り手・買い手・世間の三方良しを実現するデザイン力は、企業とデザイナーのより良い関係から生まれる」という確信のもと、自身がパートナーとして貢献できる企業を求めて今回のプロジェクトに参加していた。

選定について門谷社長が重視したのは、「一般的なコンサルタントとは違う視点で会社全体を俯瞰できる可能性」。武永氏による提案書にはブランディングチャートの草案が記載されており、門谷社長は「企業の歴史、文化、本質、特性、未来ビジョン等を一通り通的に相談できるのでは」と期待した。

デザイナーの武永氏は、「提案書では思想やビジョンなど企業の魅力の本質を解き明かし、自他共にわかるように可視化することに留意した」と話す。東洋ステンレス研磨工業のブランディングへの道筋が武永氏のチャートで可視化され、企業とデザイナーが課題とビジョンを共有することができたといえる。

企業の筋を通すデザイン力で世界へ

「デザイン力で筋の通った企業へ変貌していく」と話す門谷社長が目指すのは、世界に向けたJAPANブランドとして独自の価値を確立することだ。

「高度なデザイン力で経済振興と社会貢献を両立し、本当に豊かな社会の実現に寄与したい」と話す武永氏との協働は、その着実な一歩となるだろう。



東洋ステンレス研磨工業(株)
〒818-0131 福岡県太宰府市水城6-31-1
Tel. 092-928-3733 Fax. 092-928-5430
[http:// www.toyo-kenma.co.jp](http://www.toyo-kenma.co.jp)

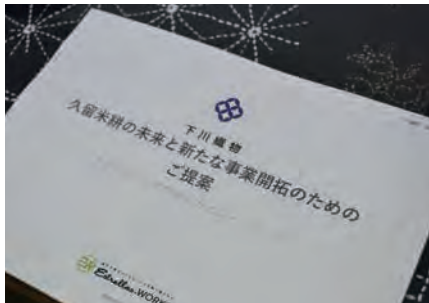


武永 茂久 武永デザイン事務所
〒810-0022 福岡県福岡市中央区薬院1-7-12-403
Tel. 092-406-8782 Fax. 092-406-8782
E-mail. t-d-o@cameo.plala.or.jp
[http:// whoswho.jagda.or.jp/jp/member/1355.html](http://whoswho.jagda.or.jp/jp/member/1355.html)

デザイン経営の力を注入したリブランディングへ。

●下川織物

1948（昭和23）年創業、福岡県八女市の久留米絣織元。「絣に寄り添い人生を楽しむ方を応援する」を合言葉に、家族「的」経営で伝統工芸の新しい形を追求し、デザイナーや企業と協働して絣生地をいかした衣服やバッグ、雑貨などを展開。SNSを活用した情報発信、工場見学、起業家支援、国内コラボレーション企画、海外プロジェクトなど意欲的な取り組みを行っている。2015年第6回ものづくり日本大賞受賞。



デザイン提案書

課題：toB案件獲得施策

| 下川織物 御中

課題解決に向けて重要視したいポイント

- ・伝統的な久留米絣の他には無い伝統と美しさ
- ・活発な情報発信力。経営者の方の情報発信の積極性
- ・豊田製の古い織機が現役で活躍している

特に改善を図りたいポイント

- ・Webに広報と宣伝、ストアの情報が混在しており、訴求ポイントと、入り口がわかりづらい

デザイン提案

● Webサイトのコンテンツの再構築

ユーザーのサイト訪問の目的を意識し、広報と宣伝、ストアの構成（レイアウト）をひと目でわかるものにリデザイン、欲しい情報にストレスなくたどり着けるようにいたします。

導線① 購入目的 導線② 資料請求 導線③ 問い合わせ 導線④ 工場見学

● リブランディング～スローガン

企業概要をシンプルに。下川織物は、「ひと言」で言うとうるすブランド&企業であるかを、シンプルな言葉でメッセージ。

● 工場をリデザインして発信力を高める

ユーザー体験のUP、全国レベルでの話題性・魅力の提供。

例）新潟・燕三条の包丁メーカー「藤次郎」

エストレージャス ワークス 吉崎達夫
www.estrellas.works

株式会社エストレージャスワークス
 Estrellas.WORKS

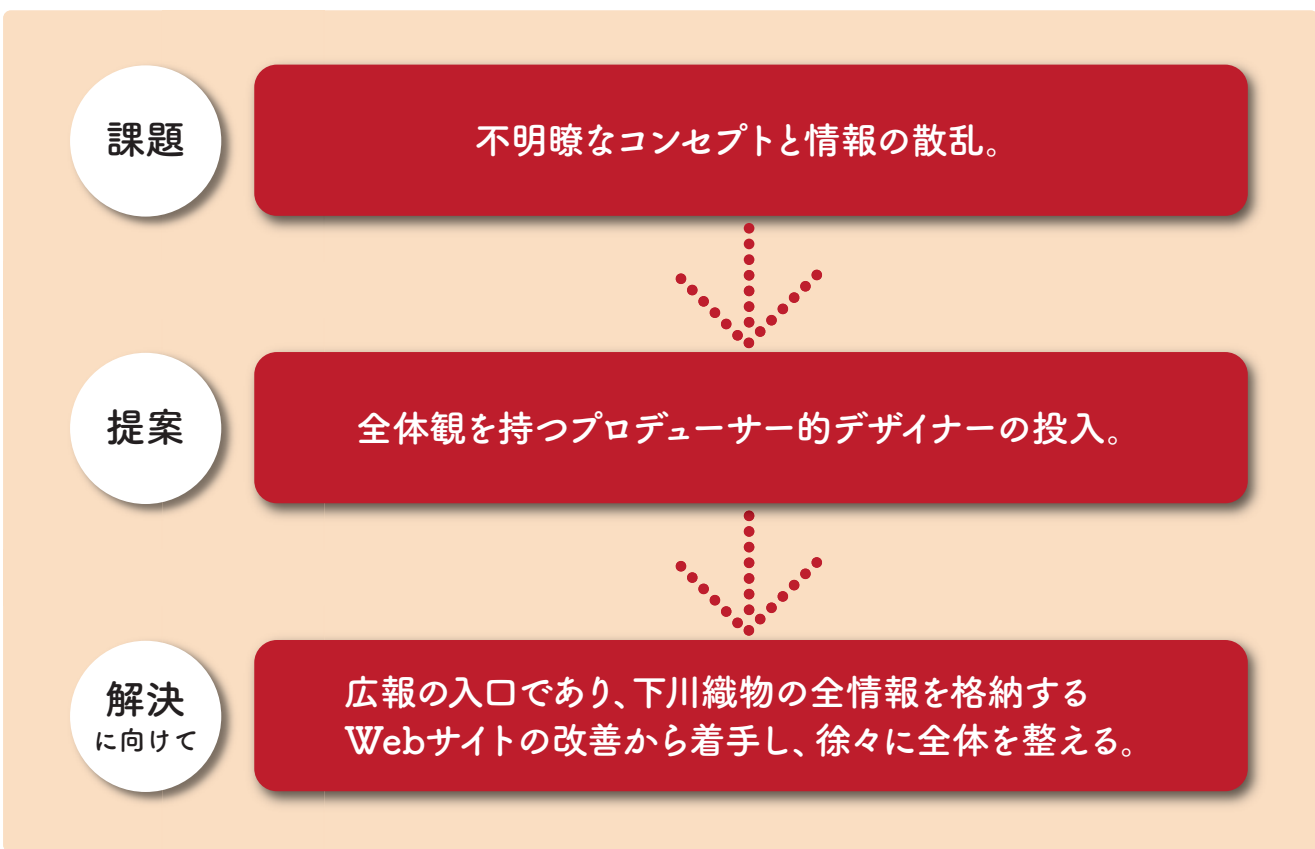
プロデューサー



江副 直樹

ブンボ株式会社 代表

西南学院大学法学部中退後、米穀店店員、工場作業員、釣り雑誌編集者、コピーライターを経て、商品開発と広報計画を柱とする事業プロデュースの会社、有限会社ブンボ設立。農業、商業、工業、観光、地域活性化など、多分野の多様なクライアントに対する、コンセプト重視の事業戦略提案とその実現が主な仕事。ときどき原稿書き。福岡デザイン専門学校 特任講師。大阪芸術大学 客員教授。12 年間の福岡県朝倉郡東峰村暮らしを経て、現在大分県日田市在住。



「デザイン」を理解するきっかけに

三代続く久留絣の織元、下川織物は、ここ数年取り組んできたマーケティングやWEBを活用した事業展開をより発展させるため、デザインの力を活用するべく、プロジェクトに参加した。

「デザインを有効活用して成果をあげている企業のように、自社でもデザインを取り入れたかったし、デザインそのものを理解するきっかけにしたかった」と、三代目の下川強蔵氏は語る。

下川織物では、これまでに必要と感じたツールなどを様々なデザイナーにオーダーしてきたが、「全体的な把握がないまま、その場しのぎ的なオーダー（下川氏）」ともいえるもので、結果的に不明瞭なコンセプトと情報の散乱が課題となっていた。

下川織物の課題プレゼンテーション

を受け、複数のデザイナーから提案があったが、選定は難航した。下川氏は「自社のプレゼン自体が満足できるものではなかったこともあるが、提案書の良し悪しの判断がつかなかった。自分自身で的確に判断できるのであれば、すでに“デザイン経営”が実践できているのではないか」と振り返る。

その後、事務局の提案により、まずはプロデューサーの江副氏と共同で案件を整理しなおし、その上であらためてデザイナーの選定を行うこととなった。

デザイン経営でビジョンの達成へ

江副氏との整理を経て課題はより明確になり、何よりも下川織物に対する「全体観」を持つことが重要とされた。結果的にデザイナー選定はプロデューサーに一任となり、エストレー

ジャス・ワークスの吉崎氏を選ばれた。

「デザイン力を求めている企業の生の声を聞きたかった」という吉崎氏は、全案件に提案書を提出。「課題の本質を見出すことと、次のステップにつなげる方法の提示に留意した。相互理解が最も大事だと考えており、ご縁をいただいた下川さんとは良きパートナーとして絆が深まる取り組みにしたい」と語る。

下川氏、江副氏、吉崎氏は検討を重ね、課題と今後の方向性を共有した。

「Webサイトのリニューアルを含むリブランディング、タイアップによる海外販路拡大、AI活用による生産システム開拓、この3つにデザイン経営の力を注入したい」—今回の取り組みで「デザイン経営に対するイメージが見えてきた」という下川氏が掲げる3つのビジョンは、その確かな意志の表れでもある。



下川織物

〒834-0024 福岡県八女市津江1111-2
Tel. 0943-22-2427
E-mail. info@oriyasan.com
https://oriyasan.com



吉崎 達夫 エストレージャス ワークス

〒810-0032
福岡市中央区輝国2-13-6 ルシエール六本松203
Tel. 092-753-9415
https://www.estrellas.works

チームの多様性が生むアクティビティを商品力に。

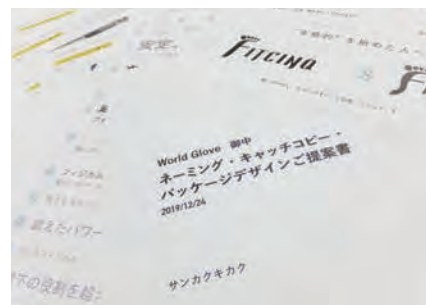
●株式会社ワールドグローブ

「GLOVEには愛がある」をキーワードに、「機能性」と「ファッショ性」を兼ね備えた手袋・靴下などのプロダクトを創造する福岡県久留米市の企業。カラーゲン保湿手袋「Moist Coat (モイスト・コート)」、iPhone向け手袋「Touch Finger (タッチ・フィンガー)」、次世代5本指靴下「Arquitect5 (アルキテクト5)」などデザイン性に優れたものづくりは評価が高く、福岡デザインアワードで連続入賞している。



フリップワークス株式会社 山川敏史 取締役

日本アスリートウォーキング協会 石部順一代表理事



デザイン提案書

令和元年9月20日

●企業名
株式会社ワールドグローブ

●課題
新商品「アスリート向け5本指ソックス」開発に向けて、プロモーションを手伝えるデザイナーを探している。

●デザイン提案
●試作品を完成させ、データ取得の協力までご協力している。
●あとはマーケティングをかけたプロモーション展開をどうするか? ということで、クラウドファンディング活用を考えている。

弊社では、クラウドファンディングプラットフォーム国内最大手「Kakaku (カカク)」と月間企画にて、クラウドファンディングのスタートアップセミナーを開催しております。インターネットを通じて多くのみなさんに少額ずつの資金提供を呼びかける資金調達方法。それがクラウド・ファンディングです。国内での活用も、年々増加傾向にあり、多くの事業者が自社の商品・サービスのアイデアや、ビジネスモデルを直接届けてクラウド・ファンディングに挑戦しています。それはまた、単なる資金調達の手段にとどまらず、テストマーケティングや商品・サービスの改良や、顧客獲得にも有効とされ、ビジネスそのものを成功させるための最良の手段とも言えます。クラウドファンディング立ち上げに伴う、デザイン・プロモーション等のサポートについてのご相談も受け付けており、ワールドグローブさんの新商品のプロモーション、マーケティングとしてのクラウドファンディングをご提案できます。

【デザイナー名】 株式会社サンカクキカク 小川千紘

株式会社サンカクキカク
mail@suncackikaku.co.jp
0942-65-7337



販売用プレリリースツール

コーディネーター



神田橋 幸治

- ・ビジネスデザインラボ/代表
- ・福岡地域戦略推進協議会 (Fukuoka D.C.) シニアコンサルタント
- ・福岡県ベンチャービジネス支援協議会 ビジネスコーディネーター
- ・久留米商工会議所/プロジェクトディレクター

課題

高機能商品の試作が完成、仕上がりも満足いく水準に。ブランド価値を高めて、主力商品へ育てていきたい。



提案

商品開発段階からの連携・巻き込みによって、優れたノウハウ・資源の外部調達を進めるとともに、地域ポテンシャルの取込みをはかる。



解決

に向けて

多様なステークホルダーによる商品開発チームを組成し、開発からプロモーションまで一体的に展開していく。

提案の実現可能性を重視する

「福岡デザインアワード」で連続入賞を果たすなど、「デザイン経営」に造詣が深いワールドグローブは、新規事業に伴い、新しいデザイナーとの出会いを求めてプロジェクトに参加した。代表の本田氏には「これまで知り合ってきたデザイナーの枠に留まらない出会いがあれば」という思いがあった。

美容・ファッション系でヒット商品を持つワールドグローブが次の柱に定めたのは、アスリート向け5本指ソックス。企業プレゼンテーションを受け、複数のデザイナーから提案書が出された。本田氏は「デザイナーの提案を通じてやるべきことの明確化につながった。想定を超えた提案もあり、大変興味をそられた」と、手応えを語る。

満足できる水準の試作品が完成して

いたこともあり、連携するデザイナー選定で重要視されたことは、「売り方」までを視野に入れた「提案の実現可能性の高さ」。コーディネーターとして参加した福岡地域戦略推進協議会の神田橋シニアコンサルタントのサポートも得て、担当デザイナーには株式会社サンカクキカクの小川氏が選定された。

チームワークで「デザイン啓発」を

「シンプルさにこだわり、できることをまっすぐ伝えることに留意した」と小川氏が語る提案書のポイントは「クラウドファンディングの活用」。クラウドファンディングを資金調達の手段とするだけでなく、優れたノウハウや資源の外部調達としても位置づけ、地域ポテンシャルを取り込みながら、新商品のテストマーケティングやプロモーションにつ

なげていこうとする考えだった。本田氏には「単に売るのはではなく、アクティビティと一緒に商品を広げたい」という考えがベースにあり、納得のマッチングとなった。

課題解決へ向け、神田橋氏のコーディネートで商品開発チームを組成。アウトドアアクティビティを担うフリップワークス株式会社の山川取締役、ウォーキングアクティビティを担うアスリートウォーキング協会の石部代表理事など参加者は多角的な広がりを見せつつ、一体的な展開が図られている。

本田氏には「地域・社会に対するデザイン啓発を行いたい」というビジョンがある。小川氏が目指す「デザインで開いていく可能性を実感できる仕事」が、多様な人脈と連携した今回のプロジェクトは、その試金石となりそうだ。



(株) ワールドグローブ

〒830-0063
福岡県久留米市荒木町荒木1538-2
Tel. 0942-80-8245 Fax. 0942-80-0017
https://www.worldglove.com



小川 千紘 (株) サンカクキカク

〒830-0064 福岡県久留米市荒木町藤田1422-1 B2F
Tel. 0942-65-7337 Fax. 0942-65-7327
E-mail. mail@suncackikaku.co.jp
https://suncackikaku.com

講師事例紹介

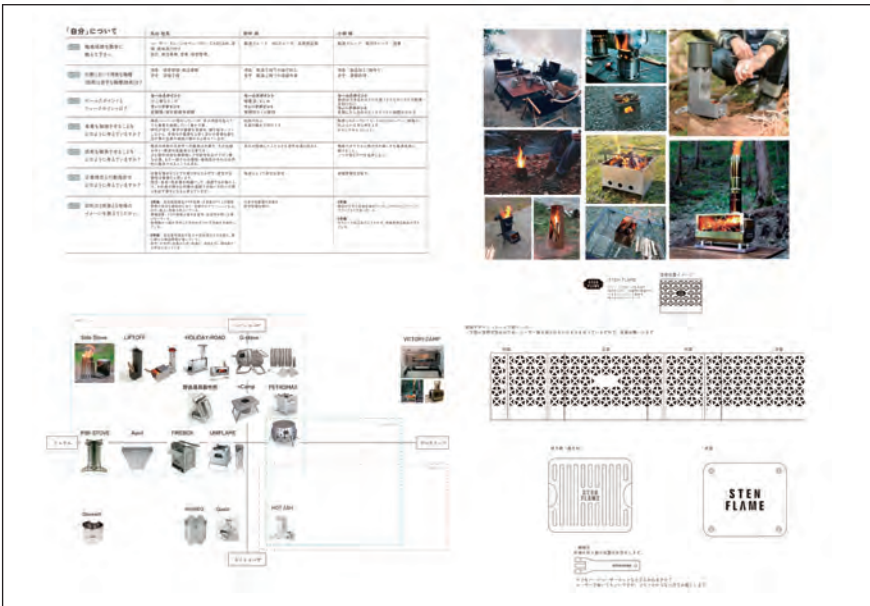
次の世代に会社を繋げていくためのデザイン経営。

●株式会社丸山ステンレス工業

1973年（昭和48年）の創業以来、ステンレスの精密板金加工に特化したものづくりを展開。優秀板金製品技能フェアにて「ステンレス製灯籠」が金賞を受賞するなど、高い加工技術を持つ。多くの企業からの加工依頼に対応しており、業務は順調であった。2005年（平成17年）現社長が就任。依頼に対応する業務はもちろん基幹業務とするものの、（株）丸山ステンレス工業という企業のあり方をもう一度考えたい、社員が家族に「何をしている会社か」と聞かれた際、誇りをもって語ることできる企業を目指したい、という思いから、自社で培った技術を結集した商品開発を行いたいという夢がふくらんでいった。



デザイン提案書



STEN FLAME
"ステンレスが生み出す炎の灯しび"
野外で使って頂ける2人用のミニストーブ。災害など緊急時にも薪ストーブとして使える道具を作りました。女性でも持ち運べる軽量サイズになっています。
焚き火台として、グリルとしても使え、人々の希望の灯になるようにという願いを込めた、町工場だからこそできる職人による一手間の技術が詰まった「Bonfire Grill」です。



課題

社員が家族に、何をしている会社かと聞かれた際、誇りをもって語ることできる企業を目指したい。



提案

丸山ステンレスを知ってもらうための「顔づくり」。



解決

に向けて

社員のみんなが楽しく使えて、知り合いにも伝えたいような商品を開発する。

丸山良博社長インタビュー

●デザイナーとの連携のきっかけは？

自社のあり方をもう一度考えたいと思っていたとき、セメントプロデュースデザインの存在を知った。代表の金谷氏の書籍を何度も読み、自社の課題や強み、進みたい方向などをあらかじめ整理した上で相談に伺った。

お互いの業界で常識が違うこともあったが、疑問に思った点や分からないことは全てそのつど質問し、社員を含めたこちらの意見を何でも伝えるようにしたため、そうした点は解消できた。

むしろ違う業界にいるからこそ違う目線で考えることができ、いい商品開発に繋がっていったと考えている。物理的な距離が離れていることについては、TV会議やSNSなどのツールで意思疎通を図っており、不便はない。「費用が高いのでは？」とよく言われるが、自社でデ

ザイナーやマーケッターを雇うことを考えれば、安いくらいだと思う。

●商品開発までの道のりは？

当初は家具やステーションナリー、ワインクーラー、マネークリップなど多くの候補があった。紆余曲折の中で、社員もユーザーの一人として「自分事」と捉えられる商品が良いと考え、メンバーの総意でアウトドア用品に決定した。

最終的な決定をデザイナー任せにすることは、企業の責任逃れにつながり、自分事として考えられないため社員も本気になれない。また、企業はデザイナーの指示を待つだけとなってしまう、それではデザイナーの下請けになるのと変わらない。今思えば、決定の過程では、最終的な決定権とその責任はいつも当社が持つようにマネジメントされて

いたと思う（笑）。

デザイナーは、何とかしてくれと丸投げしていれば企業の代わりに全てを行ってくれるのではなく、一緒に未来を考えることができるパートナー。

●「デザイン」で変わったことは？

金谷氏と商品開発に取り組む中で、「今ある仕事」だけを続けていた時よりも、会社としての経験値や表現力、新しいことへ挑戦する意欲が高まり、社員の目つきや姿勢がどんどん良い方向に変わっていった。社内でもこうした変化が起きただけでも、デザイン経営に取り組んだ意味があったと思う。次の世代に会社を繋げていくための取り組みこそが「デザイン経営」だと考えている。



(株)丸山ステンレス工業

〒861-0331 熊本県山鹿市鹿本町来民1017-2
Tel. 0968-46-3234 Fax. 0968-46-5318
E-mail. maruyama@maruyama-sk.co.jp
<https://www.maruyama-sk.co.jp/>



金谷 勉 (有)セメントプロデュースデザイン

〒550-0003 大阪府大阪市西区京町堀1丁目15-23
Tel. 06-6459-0368 Fax. 06-6459-0365
<http://www.cementdesign.com>

その先にある、それぞれのデザイン経営を求めて。

今回のプロジェクトに参加した企業の中には、デザイナーの選定に至らなかったケースもあった。しかし、いずれの企業も「デザイン経営」の実践へ向けて確かな一歩を踏み出したことで貴重な萌芽を得た。その芽をリアルな成果へとつなげるべく、デザイナーとの協働に向けた取り組みがすすめられている。

社内方針を明確にしてデザイナーと連携し、新たな商品開発へ。 株式会社はかた匠工芸



1955年創業、博多織の製造販売、和装文化に関する情報サービスの提供を行うはかた匠工芸は、第62回（2018年）新作博多織展にて内閣総理大臣賞を受賞するなど、その技術は高い評価を得ている。

〔今里氏：談〕以前から、博多織を活かした小物を企画するために社外のデザイナーとディスカッションを行いたいと考えており、今回のプロジェクトに参加した。九州にどんなデザイナーがいるのかを知る良い機会だった。

デザイナーの選定にあたっては「実績＝人柄」という考え方を重視した。デザインは「表現」だけでなく、「経営や企画全体と一緒にプランニングす

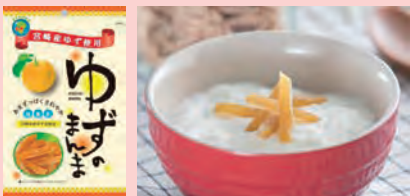
ること」で、デザイナーはそのパートナーであるということが理解できた。他社とも連携した経験を持つデザイナーとの協働は、自社にとって大変意味のあることだと思う。

セミナーや個別相談会を通じ、自社の強みや弱み、ターゲットなどが十分に分析できていないと感じたので、社内で営業部長を交えたディスカッションなどを行うなど、まずは会社としての方針決めを行っている。「どんな商品を誰に届けたいか」などの社内方針を明確にした上でデザイナーと連携し、新たな商品開発につなげたい。



〒816-0921 福岡県大野城市仲畑2丁目12-40 TEL.092-581-7232 FAX.092-573-7505
<https://takumikougei.jp/>

オリジナル商品や海外展開で必要になる、企業ブランディング。 かくやフーズ株式会社



2000年11月創設。2019年3月「かくやフーズ株式会社」に社名変更。宮崎県産のゆずを活用した「ゆずのまんま」が主力商品で、小売りやインターネット販売を行うほか、食品関連の商品企画や輸入販売を行っている。

〔宮尾社長：談〕どんなデザイナーがいるのかという興味と、海外展開における商品パッケージデザインのこともあって参加した。提案書では、正直、ピンとくるデザイナーを探すことができなかった。デザイナーと個別に話をする機会があれば、人となりが分かかって選びやすかったかもしれない。「デザイン経営」というからには、経営を任せられるレベルで企業を理解していなけ

ればパートナーとしての選定は難しい。当社は「素材菓子」という商品を展開しており、同じ商材を売先ごとにパッケージや内容量を変えて販売している状況のため、「かくやフーズ自身をアピールしたい」、「全商材のイメージを統一したい」という方針ではなく、トータルデザインに対する重要度がやや低い。ただし、自社オリジナル商品などを増やしていく場合や、海外展開も視野にいれた場合は、「企業ブランディング」という意味でのデザインも必要になってくると考えている。



〒811-2207 福岡県糟屋郡志免町南里2丁目20-9 TEL.092-937-5077 FAX.092-937-5078
<https://net-kakuya.ne.jp/>

パートナーとしてデザイナーと一緒に考え、より良いものを。 有限会社ふるさと倶楽部（唐津くん煙工房）



1996年設立。国産素材を使用したトンネル熟成ハム・ソーセージの製造・販売を行っている。

〔雪竹社長：談〕2019年にハム・ソーセージを使ったピザやパンの販売ために店舗移転を考え、新たなデザイナーとの出逢いを求めて参加したが、既知のデザイナーと同じ方向性の提案でグッとくるものがなく、選定に至らなかった。商品・サービスの良し悪し分かるのは提供している企業側。自社

としての強み／弱みをしっかり社内で議論し、譲れない核、ぶれない軸となる部分を明確にしてからデザイナーと話すことが重要だと思う。

企業の意見を伝えるためには、企業自身もデザインについて多くを学び、知見を高めておく必要がある。デザイナーは丸投げする相手ではなく、パートナーとして一緒に考えていくことでより良いものができると考えている。

〒847-0062 佐賀県唐津市船宮町2303番地1号 TEL.0955-74-4015 FAX.0955-74-4033
<https://furusato-ippin.co.jp/>

デザイナーと連携し、自社の価値を伝える企業ブランディングを。 株式会社 YE DIGITAL



1978年、安川情報システムとして創業。2019年、デジタル経営実現に貢献すべく、YE DIGITALに社名変更。

〔担当者：談〕テクノロジーの進化が加速度的に進むなかで、顧客に自社の価値を伝えるためには、企業の方針や他社との違いを明確に伝えていかなければならないと感じている。そのためブランディングの必要があると認識していたが、デザイナーをどう探せばいいのかわからず、参加した。

今回は社内の意思統一が十分でなく、即座にデザイナーとの連携までには至らなかったが、提案書などを通じてデザインは外観を整えるだけのものではないと実感している。2020年初夏に本社移転を機にショールームを設置する。（新住所：〒802-0003 北九州市小倉北区米町二丁目1番21号 APエルテージ米町ビル）。将来的にはデザイナーと連携し、企業ブランディングなど積極的に行っていきたい。

〒806-0037 福岡県北九州市八幡西区東王子町5-15 TEL.093-622-6111 FAX.093-622-6121
<https://www.ye-digital.com/jp/>

出逢いと気づきで「デザイン会社」として進める、デザイン経営。 株式会社アルバス



まちの写真館と保育園を運営。アルバムや書籍、雑貨などの販売、イベント企画やデザイン業務も行っている。

〔酒井代表：談〕社内にデザイナーを抱えるなか、福祉事業にもチャレンジしながら、社会をデザインできるようなプロデュース事業を学びたいと参加した。デザインを核とした企業として自社のデザイン経営について学びたいと考えていたため個別相談会に参加し、自社を違う角度から整理し直す方

法を学んだ。プロジェクトを通じて出逢いと気づきをもらい、専門家との連携の重要性を理解できた。現在は当社の事業全体を整理し、予算などの相談も対応いただける専門家と出逢うことができ、デザイン会社としての社内のデザイン経営を進めている。

〒810-0023 福岡県福岡市中央区警固2-9-14 TEL.092-791-9335 FAX.092-791-9336
<http://albus.in/>

企業支援を活性化するデザイン経営の可能性。

今回のプロジェクトでは、一般企業だけでなく金融機関からの参加もあった。
先行き不透明なこの時代に、「デザイン経営」を活用した企業支援が動き出している。

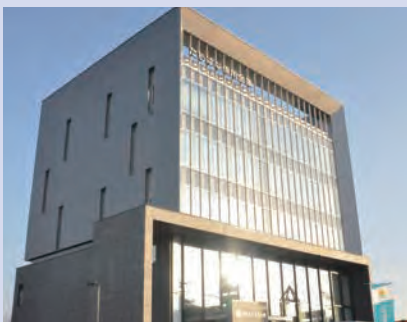
デザインパートナーと共に、デザイン経営で企業支援を。 たちばな信用金庫



たちばな信託銀行 担当者



支援先：彫刻屋 たくみ 下村氏



〒854-0053 長崎県諫早市小川町 52-1 TEL.0957-24-0027 FAX.0957-24-0002
<https://www.tachibana-shinkin.jp/>

1949年12月8日設立。1999年11月1日、諫早信用金庫が長崎信用金庫との合併により「たちばな信用金庫」と名称変更。金融支援のみでなく、「たちばなビジネスクラブ」や「たちばな未来塾」など地域の経営層向けに勉強会やセミナーなどを実施し、地域ビジネスを支援している。

〔業務部：談〕「デザイン経営」という言葉を初めて知ったのは、九州経済産業局による九州北部信用金庫協会での説明のときだった。企業支援に「デザイン経営」という手法があることを知り、「彫刻製作時に出る端材を何かに役立てることはできないか」と悩んでおられる支援先企業と一緒に、デザイナー募集のプレゼンテーションに参

加した。

現在、提案をいただいたデザイナーから1名を選定して3回の面談を重ね、一緒に何ができるか検討している。信用金庫内で「デザイン経営」という言葉に対する理解が十分浸透していないため、将来的には職員向けにデザインプロセスやデザイン思考を学ぶワークショップや研修などを開催したり、信金としてのデザインパートナーを探し、企業支援のひとつのメニューとして「デザイン経営」という支援を行えるようになりたいと考えている。

一貫したデザイン経営を、有意義な経営リソースに。

● ゲイトライトデザイン



〒841-0026 佐賀県鳥栖市本鳥栖町 633-10 ザ・鳥栖タワー 20 1006 TEL.0942-80-3570 FAX.0942-80-3570
<http://gl.design.jp/>

〔関光氏：談〕以前から「デザイン経営」には意義があると共感しており、今回はぜひ参加したいと思った。

「提案書」という紙面だけでのデザインマッチングは難しく、面談もお願いして、日頃からいちばん協業したいと考えていた業種の会社にお声掛けいただいた。

企業へ実績をアピールするプレゼンテーションでは、通常は口頭で進めているところを書面で視覚化するきっかけになり、デザイン活動をより論理的に話すガイドになってよかったと思う。

これまで製品デザインを専門に行ってきたが、事業構想からマーケティングやブランディングまで一貫していなけ

れば上手くいかない。これはデザイン経営活動そのもので、すべての事業者に必要なスタンスであり、川上から川下までの活動をワンストップで行えるのが製品デザイナーだと考えている。

デザインは事業者ごとの「らしさ」を表現しながら事業を具体的に進め、売上を作る活動。生み出された製品・サービスを通じ、事業者と共に顧客を少しでも幸せにしたいと願ってデザインを行っている。今後もこのスタンスで活動を継続し、より多くの事業者のサポートができればと思っている。

企業の課題解決に、デザインを活用した新提案を実践。

福岡ひびき信用金庫



ソリューション営業部 担当者



〒805-0059 北九州市八幡東区尾倉 2-8-1 TEL.093-661-2311 FAX.093-661-2414
<https://www.fukuokahibiki.co.jp/>

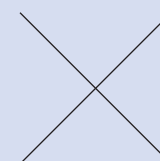
1924年設立。福岡などに46店舗を構え、様々な経営課題解決のサポートを行っている。

〔ソリューション営業部：談〕日々の情報入手で「デザイン経営」というワードは目にしていたが、具体的な理解には至っていなかった。職員自身がデザイン経営を体験し、企業支援に取り入れることができれば、という想いで参加した。当金庫の幹部がデザイン経営に理解がある環境でもあった。

金谷氏の講演で重要とされた「共創」は、企業を取り巻く周囲の協力が不可欠

であり、企業の目指している方向性の把握や新たな商品やサービスに対する思い入れを深めることにもつながるため、その中心的な役割を地域金融機関が果たせれば理想的だと感じた。

企業の課題をデザイナーと考えるワークショップで、多方向の視点に気づくことができた。新たな視点を職員自身が学んだことで、既存のロジカルな経営支援手法では限界を感じていた会員企業の課題解決について、デザインを活用するという新たな提案ができるようになった。



「食べる幸せ」をデザインの力でお客様に届けたい。

● 有限会社月翔



清永氏



幸田氏



〒805-0061 北九州市八幡東区西本町1丁目 3-18 KTO ビル 203 号 TEL.093-921-8600 FAX.093-921-7711
<https://www.kirara-tukito.jp/>

2001年「チームケアステーションきらら」開設。2006年、通所介護と重症重複障がい者の生活介護「きららデイサービスセンター」オープン。北九州の民間企業ではパイオニア的企業。

〔清永代表：談〕福岡ひびき信用金庫担当者からデザイン経営の提案を受け、安心・安全な「美味しい食事としての嚥下食」の提供・開発を行う社内ブランド「七日屋」の相談で参加した。6名のデザイナーとディスカッション

でき、この事業に興味を持っていたデザイナーに感謝している。多くの意見を聞くことで消費者へ伝えたいことが明確になり、課題が整理できたことは大きな成果につながった。実際に事業を活用しているが、事業担当者の能力が高いだけでなく、企業にしっかり寄り添う丁寧な仕事ぶり、どのような結果がでるか楽しみだ。

「我々だからできる」を見直すために、デザインの力を。

● 株式会社一新堂



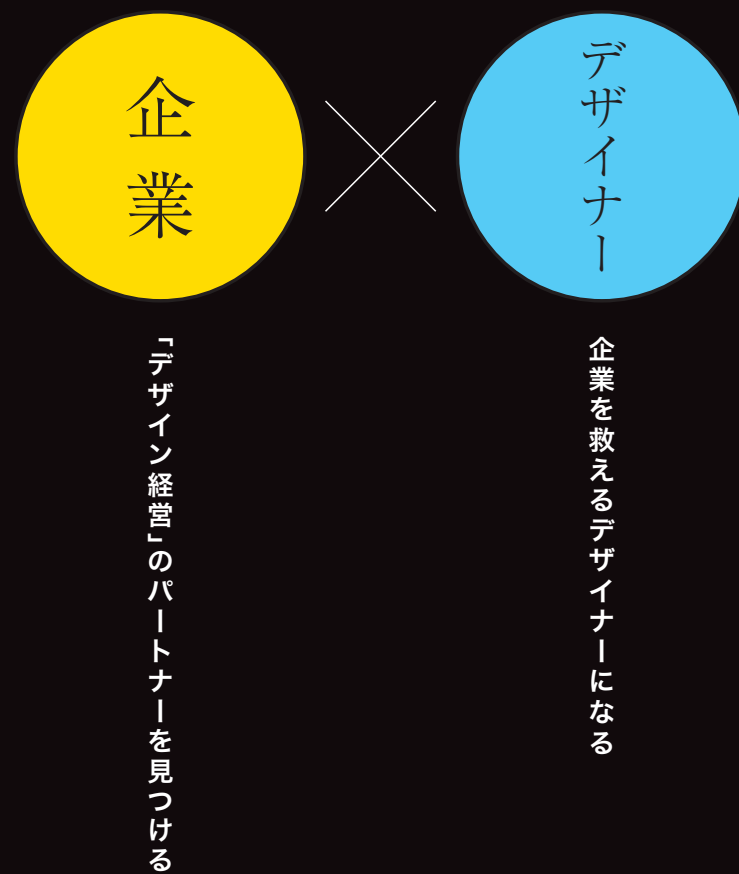
佐賀県有田町で 1956年に創業した貼箱メーカー。三代目の本土大智社長がデザイナーと連携して企業自体のトータルブランディングを行い、2018年にグッドデザイン賞を受賞。

〔本土社長：談〕現在、在庫や裁断後の紙やボール紙の多くが廃棄となっており、経営上もSDGsの観点からも大きな課題で、こうした端材を「本当に欲しい人のもとへ本当に欲しい商品として届

けたい」という想いに共鳴いただけるデザイナーとの出逢いを求め、伊万里信金・福岡ひびき信金担当者から提案を受け参加した。

デザイン経営には、経営層が本気でビジョンを見据え、問題の本質を改善する事が重要と考えており、「ただ売るためのデザイン」ではなく、「会社をより良い方向に変えるデザイン」のために、デザイナーと協働していきたい。

〒844-0012 佐賀県西松浦郡有田町桑古場乙 2369 TEL.0955-42-5131 FAX.0955-42-2001
<https://isshindo1956.com/>



まとめ

九州経済産業局が実施した、令和元年度「デザイン経営」手法を活用した地域中小企業等支援方策調査事業「デザイン経営」のパートナーを見つけるプロジェクトを通じて、デザイン経営の導入促進に向けた、企業・デザイナー双方の意識改革の必要性が強く認識されました。当プロジェクトに参加した全ての企業・デザイナーを網羅できているものではありませんが、掲載事例等からおわりの通り、企業とデザイナーの連携に至るプロセスや、発生する課題等はそれぞれ異なっており、解決方法やその道筋も様々です。

下記に当事業の成果と、今後の企業におけるデザイン経営導入促進に向けて必要と考えられることをまとめます。

本プロジェクトによって得られた成果

- 「デザイン経営」に関する意識や理解の向上を図りました。
令和元年 8 月 6 日：デザイン経営のパートナーを見つけるプロジェクトセミナー（…P12）
（エントリー企業・支援機関 66 社）
令和元年 9 月 10 日：企業を救えるデザイナーになるプロジェクトセミナー（…P12）
（エントリーデザイナー 53 社）
- 下記の機会を通じ、企業とデザイナーの連携をサポートしました。
令和元年 7 月 31 日：企業と複数デザイナーによるワークショップ（2 社…P14）
令和元年 8 月 7 日：デザイナーとの個別相談会（5 社…P15）
令和元年 9 月 18 日：企業からの課題プレゼン（8 社…P16）
令和元年 10 月 1 日：デザイナーからの実績プレゼン（12 社…P18）
令和元年度中：デザイナー募集相談（3 社…P33）
- 当プロジェクトをきっかけとし、連携が開始しました。（令和 2 年 3 月 1 日時点）（…P21）
契約、秘密保持契約書、覚書等の締結（5 社）
課題解決に向けパートナー選定中（5 社）
- 自社の強みや課題の整理・検討を通じて「デザイン経営」への理解が深まりました。（…P30）

今後に向けて必要と考えられること

- 企業経営層の「デザイン経営」に関する更なる理解
- 企業自身による、自社の強み・課題の整理
- デザイナーのデザインプロデュース力の更なる向上
- 企業・デザイナー双方が本音で相談し合える場
- 企業・デザイナー双方の知的財産・契約実務に関する知識向上